

No title available

PA-27517
④

Publication number: JP5345712

Publication date: 1993-12-27

Inventor: MASAKI HITOSHI; TAKEI MASUMI

Applicant: NOEVIR KK

Classification:

- international: A61K8/72; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/73;
A61Q19/00; A61K8/72; A61K8/00; A61K8/02;
A61Q19/00; (IPC1-7): A61K7/48; A61K7/00

- European:

Application number: JP19910116774 19910419

Priority number(s): JP19910116774 19910419

Report a data error here

Abstract of JP5345712

PURPOSE: To provide a pack cosmetic having high affinity to skin and high moisture retention taking advantage of the film-forming property of chitosan. **CONSTITUTION:** The pack cosmetic having excellent moisture-retention, film-forming property and peelability, free from stimulation and capable of forming a chitosan film having high affinity to skin and increased film strength is produced by compounding a film-forming agent consisting of (A) an acid salt of chitosan or a water-soluble chitosan derivative selected from carboxylated compound, sulfonated compound, glycolated compound or quaternized compound of chitosan and (B) a water-soluble nonionic polymer compound.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

PA-27517
④

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-345712

(43)公開日 平成5年(1993)12月27日

技術表示箇所

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I
A 6 1 K 7/48		9051-4C	
7/00	U	9164-4C	
	J	9164-4C	
	W	9164-4C	

審査請求 未請求 請求項の数2(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平3-116774
(22)出願日 平成3年(1991)4月19日

(71)出願人 000135324
株式会社ノエビア
兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目13番地
の1
(72)発明者 正木 仁
滋賀県八日市市妙法寺町774-13
(72)発明者 竹井 増美
滋賀県近江八幡市鷹飼町498-11

(54)【発明の名称】 パック化粧料

(57)【要約】

【目的】 キトサンの皮膜形成性を利用して、皮膚に対して親和性が高く、且つ保湿性の高いパック化粧料を得る。

【構成】 キトサンの酸塩、またはキトサンのカルボキシル化物、スルホン化物、グリコール化物、四級化物より選ばれた一種以上の水溶性誘導体と、非イオン性の水溶性高分子化合物を皮膜形成剤として配合し、皮膚に対する親和性の高いキトサン皮膜を形成するとともに、その強度を増強した、保湿性、皮膜形成性、剥離性に優れ、刺激感のないパック化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 キトサンの酸塩、またはキトサンのカルボキシル化物、スルホン化物、グリコール化物、四級化物より選ばれた一種以上の水溶性誘導体と、非イオン性の水溶性高分子化合物を皮膜形成剤として配合して成る、パック化粧品。

【請求項2】 非イオン性の水溶性高分子化合物が、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、デキストラン、プルラン、カードラン、ペクチン、グアーガム、ローカストビーンガム、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドンより選ばれた一種以上

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】本発明は、キトサンを皮膜形成剤として配合したパック化粧品に関し、べたつかずさっぱりとした使用感を有し、且つ高い保湿性を示し、皮膚にしっとり感を与え得る、しかも安全性の高いものを提供するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、皮膚の血行の促進、有効成分の経皮吸収の促進、皮膚の清浄化等を目的として、パック化粧品が用いられてきた。パック化粧品としては、ゼリー状で乾燥すると皮膜を形成し、はがすタイプのピールオフパック、吸着性粉末を配合し、使用時に水または乳液等を加えてペースト状にして用いる粉末パック、パックした後洗い流すタイプのウォッシングパック等が挙げられる。その中でも、上記したパック化粧品の効果を最大限発揮でき、またパック操作の簡便なピールオフタイプのものが広く普及している。

【0003】かかるピールオフタイプのパック化粧品は、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、酢酸ビニル、カルボキシメチルセルロース等の皮膜形成性を有する高分子化合物を主成分とし、これらにプロピレングリコール、グリセリン等の保湿剤を配合して、水、エタノール等の溶剤に溶かし、ゼリー状としたものであった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記のような従来のパック化粧品、特にピールオフタイプのものは、形成される皮膜の皮膚に対する親和性が今ひとつであったり、また皮膜が強すぎてはがすときに痛みや皮膚に対する刺激感を生じたりする欠点があった。

【0005】また、最近、生体適合性の高い高分子化合物であり、しかも皮膜形成性及び保湿性を有するものとして、キチン、キトサンが注目され、利用され出している。しかし、キチンは水に溶けず、ピールオフタイプのパック化粧品への応用は難しい。また、キトサンは、酸の塩とすると水溶性を示し、キチンよりも扱い易いが、乾燥後生成する皮膜が強度的に弱いという問題点

があった。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題の存在にもかかわらず、ピールオフパックにおいて、皮膚に対し親和性の高い皮膜を形成させ、皮膚に対する刺激性を改善するためには、キトサンの皮膜利用が非常に有効であると考えられる。さらにキトサン皮膜自体が優れた保湿性を有することもピールオフパックには有用である。そこで、我々はキトサンをピールオフタイプのパック化粧品に応用するべく、鋭意検討を行った。その結果、非イオン性の水溶性高分子化合物と併用することにより、キトサン皮膜を強度的に強化することができ、ピールオフパック化粧品にキトサンを有効に利用することに成功した。

【0007】すなわち、皮膜形成剤として、キトサンの酸塩、カルボキシル化物、スルホン化物、グリコール化物、四級化物から選択した水溶性誘導体を用い、さらに、分子中にあまり荷電を持たない非イオン性の水溶性高分子化合物を配合することによって、キトサン皮膜の強度の増強を図った。非イオン性の水溶性高分子化合物としては、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、デキストラン、プルラン、カードラン、ペクチン、グアーガム、ローカストビーンガム、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドンの1種以上が好適である。ここで、非イオン性の水溶性高分子化合物を用いるのは、荷電を有するイオン性の高分子を配合すると、キトサンの酸塩またはカルボキシル化物等の水溶性誘導体との間でイオン複合体を形成し、不溶性となって取扱いが不便となるからである。

【0008】

【作用】以上のように、本発明においては、キトサンの酸塩または水溶性誘導体と非イオン性の水溶性高分子化合物を皮膜形成剤として併用する。使用する皮膜形成成分のうち、20重量%以上をキトサンの酸塩または水溶性誘導体とすることが好ましい。これにより、従来の皮膜形成剤のうち、相当量を生体適合性の良いキトサン誘導体で置き換えることができ、皮膜の皮膚に対する親和性を改善することができる。

【0009】本発明に係るパック化粧料を皮膚上に塗布すると、皮膚上で透明でなめらかな皮膜を形成する。この皮膜は適度な強度を有し、乾燥後皮膚から剥離する際に皮膚に刺激感を与えることなく、円滑に剥離できる。また、キトサン自体が高い保湿性を有するので、キトサンを含む皮膜は皮膚に対し良好な保湿効果を示す。従って、本発明に係るパック化粧料は使用中及び使用後において、良好なしっとり感を与える。また、さらにヒアルロン酸ナトリウムや、ピロリドンカルボン酸ナトリウム等の保湿成分を配合することもできるが、キトサン皮膜自体が保湿性を有するため、それらの配合量を低減することができ、べたつきを与えずさっぱりとした使用感を

付与することができる。

【0010】

【実施例】さらに、本発明について、実施例により詳細に説明する。実施例1はゼリー状のピールオフタイプパ*

* ック化粧料、実施例2はペースト状のピールオフタイプパック化粧料である。これらの処方を表1及び表2に示す。

【表1】

成 分	配合量 (重量%)
(1)カルボキシシルキトサン	7.0
(2)ポリビニルアルコール	6.0
(3)エタノール	4.0
(4)ポリオキシエチレン(20 E.O.) ソルビタンモノラウレート	1.0
(5)プロピレングリコール	3.0
(6)グリセリン	1.0
(7)メチルパラベン	0.1
(8)香料	0.2
(9)精製水	77.7
計	100.0

【表2】

成 分	配合量 (重量%)
(1)グリコール化キトサン	10.0
(2)カードラン	5.0
(3)ポリビニルアルコール	10.0
(4)オリーブ油	3.0
(5)ソルビトール	5.0
(6)酸化チタン	8.0
(7)カオリン	7.0
(8)エタノール	5.0
(9)メチルパラベン	0.2
(10)香料	0.2
(11)精製水	46.6
計	100.0

【0011】実施例1は、表1中(9)に(4)、(5)、(6)を溶解し、これに(1)と(3)の一部で湿潤させた(2)を撈はんしながら添加混合し、70℃に加熱溶解した後冷却

し、(3)の残部に(7)、(8)を溶解したものを50℃にて添加した後さらに冷却して調製する。ここで、表1中、(1)のカルボキシ化キトサンをポリビニルアルコール

に代替したものを比較例1とした。

【0012】実施例2は、表2中(11)に(5)を溶解し、(6)、(7)を添加混合後、(1)、(2)及び(8)の一部で湿潤させた(3)を添加後70℃に加熱溶解した後冷却し、(8)の残部に(9)、(10)を溶解させて50℃にて添加し、さらに(4)を添加混練して調製する。ここで、表2中、(1)のグリコール化キトサンを酢酸樹脂エマルジョンに代替したものを比較例2とした。

【0013】実施例1、実施例2ともに皮膚に塗布すると、透明性に優れ、触感もなめらかで且つ剥離性も良好な皮膜を形成した。

*【0014】

【発明の効果】本発明の効果を示すため、上記実施例の使用感及び効果について、官能評価を比較例との比較において行った。官能評価は、実施例及び比較例の各試料を20～50才の女性パネラー30名にブラインドにて使用させ、使用時のしっとり感、皮膜形成性、刺激感、はがし易さ、及び使用後のしっとり感、さっぱり感、刺激感について、表3に示す評価基準に従って行われた。結果は、30名の評点の平均値にて表4に示した。

【表3】

項 目	評 価	評 点
しっとり感 さっぱり感	あ る	5
	や や あ る	4
	どちらともいえない	3
	あ ま り な い	2
	な い	1
皮膜形成性	非 常 に 良 い	5
	良 い	4
	普 通	3
	や や 悪 い	2
	悪 い	1
刺激感	な い	5
	や や な い	4
	どちらともいえない	3
	や や あ る	2
	あ る	1
はがし易さ	は が し 易 い	5
	や や は が し 易 い	4
	普 通	3
	や や は が し 難 い	2
	は が し 難 い	1

【表4】

試料		実施例	比較例	実施例	比較例
評価		1	1	2	2
使用時	しっとり感	4.8	4.1	4.8	3.8
	皮膜形成性	4.3	4.7	4.6	4.8
	刺激感	4.9	2.2	4.7	1.9
	はがし易さ	4.8	2.0	4.7	1.8
使用後	しっとり感	4.9	3.6	4.7	3.3
	さっぱり感	4.7	3.2	4.8	3.4
	刺激感	5.0	2.8	4.9	2.4

【0015】表4から明らかなように、使用時及び使用後のしっとり感、刺激感、及び使用後のさっぱり感において、各実施例ともに比較例よりも良い評価を得ていた。皮膜形成性については、実施例は比較例に比べ同程度の評価を得ており、一方、はがし易さについては、比較例よりも良好な評価を得ていた。

【0016】以上のように、本発明により、皮膚への親和性が高く、保湿性に優れ、且つべたつかずにさっぱりした使用感を有するパック化粧料を提供することができた。また、このパック化粧料においては、使用時及び使用後の刺激感もなく、皮膜の剥離も容易であり、安全性及び使用性に優れるものであった。